

uite sue. Nam sic bñs iob i
sultabat reges. ita isti parē
tes et cognati ei. et irridebāt
uitam eius dicentes. Vbi ē
spēs tua p qua belimolina
et sepulturas faciebas. Tobī
as nō incipabat eos dicens.
Nolite iam loqui. qm filii
scōr sumus. et uitam illam
expectamus. quā dñs datur
ē his qui fidē suam nūq̃
mutāt ab eo. **Salū dōce**
iiij. mensis septēb. ad. oī. a.

Catonay dñe dñs magne et mui
bilis qui dedisti salutē ī manu fēi
ne. exaudi pces suor tuor. **Do**
minica. iiij. mēsis septēb.
ponitur lib. Judith et legit
per unam hebdomodā. l. j.

Raphasath
itaq rex me
dorum sbu
gauciat ml
tas gentes i
perio suo. et ipse edificauit
ciuitatē potentissimā quā
appellauit hebathamis ex la
pideib. quadratis et sectis. fe
cit muros ei in altitudine
cubitoz. lxx. et in latitudine

cubitoz. xxv. tūres u
fuit in latitudine ei
centū. p quadru uō la
tum utramq. uice
pedum spatio teneba

Adonay domine dñs mag
nabilis qui dedisti salutē in
femine. Exaudi pces suor
Bñdictus es dñe qui nō de
psumentes de te. et de tua u
tes humilias. Exaudi. **Lo**

Posuitq. portas
titudine turri
batur q̃ potens in po
exercitus sui. et gloria
garum suarū. Anno
viij. reg̃ sui nabuchod
rex assyrior qui regn
inimue ciuitate ma
pugnauit d̃ arsalath
nuit eum in campo
qui appellat̃ iagau ci
fiaten. et tygrin. et iat
in campo eiocb regis

Ribulatioēs ciuit
unius q̃s passē sūt et defec
mor et ebuto mētis cecid
et sup liberos nros ipi mon
recipere fugam mām. Dñe
Peccauim cū pāb nris

Zephyros90

Manuscripts from the Naito Collection in the National Museum of Western Art



5



6

印刷技術のなかった中世ヨーロッパにおいて、写本は人々の信仰を支え、知の伝達を担う主要な媒体でした。羊や子牛などの動物の皮を薄く加工して作った紙に人の手でテキストを筆写し、膨大な時間と労力をかけて制作される写本は、ときに非常な贅沢品となりました。テキストの区切りやページの余白には、華やかな彩飾が施されることもありましたが、それらの例の中には、書物としての実用の域を超えて一級の美術作品へと昇華を遂げているものも珍しくありません。

当館では2015年度に、筑波大学・茨城県立医療大学名誉教授の内藤裕史氏より、写本リーフ（本から切り離された一枚一枚の紙葉）を中心とするコレクションを一括でご寄贈いただきました。その後も2020年にかけて、内藤氏ご友人の長沼昭夫氏からも支援を賜りつつ、新たに26点の写本リーフを所蔵品に加えています。内藤氏が数十年を費やして収集したコレクションは、時代的には13世紀から16世紀（以降の作例も若干数含む）、地域的にはイングランド、フランス、ネーデルラント、ドイツ、イタリア、イベリア半島と多岐にわたります。聖書や時祷書などキリスト教関係のものが大半を占めますが、世俗的な内容を持つ作例も一部含まれます。

当館は、2019-20年度に三期にわたり開催した小企画展で、内藤コレクションを紹介してきました。しかし、コロナ禍の折でもあったため、それらは小規模なものにとどまったと言わざるを得ません。こうした事情をふまえて、改めて内藤コレクションの作品の大多数を一堂に展示し、広く皆様にご覧いただくべく企画されたのが本展です。また当館では、コレクションの寄贈を受けて以来、実践女子大学の駒田亜希子教授を客員研究員に迎え、さらに国内外の専門家からも広く協力を仰いで、個々の作品に関する学術的な調査を進めてきました。本展はその数年来の成果をお披露する機会ともなります。

本展は、内藤コレクションを中心に、国内の大学図書館のご所蔵品も若干数加えた約150点より構成され、聖書や詩編集、時祷書、聖歌集など中世から近世初頭にかけて普及した写本の役割や装飾の特徴などをジャンルごとに見ていきます。この機会に是非、書物の機能と結びつき、文字と絵が一体となった彩飾芸術の美、「中世の小宇宙」をご堪能いただければ幸いです。

〔国立西洋美術館主任研究員 中田明日佳〕

- 1 カマルドリ会士シモーネ（彩飾）
《典礼用詩編集零葉》イタリア、フィレンツェ
1380年頃 彩色、インク、金/獣皮紙 内藤コレクション（長沼基金）
- 2 聖王ルイ伝の画家（マイエ?）（彩飾）
《『セント・オールバンズ聖書』零葉》フランス、パリ
1325-50年頃 彩色、インク、金/獣皮紙 内藤コレクション
- 3 ジョヴァンニ・ディ・アントニオ・ダ・ボローニャ（彩飾）
《典礼用詩編集零葉》イタリア、ボローニャ
1425-50年 彩色、インク、金/獣皮紙 内藤コレクション
- 4 《聖務日課聖歌集零葉》ドイツ南部、アウクスブルク?
1490年代前半 彩色、インク、金/獣皮紙 内藤コレクション
- 5 《時祷書零葉》南ネーデルラント
1500年頃 彩色、インク、金/獣皮紙 内藤コレクション
- 6 《詩編集零葉》南ネーデルラント、ブリュッヘ
1260年頃? 彩色、インク、金/獣皮紙 内藤コレクション

〔表紙〕

フランチェスコ・ダ・コディゴロ（写字）、ジョルジョ・ダレマーニャ（彩飾）
《『レオネッロ・デステの聖務日課書』零葉》（部分）イタリア、フェラーラ
1441-48年 彩色、インク、金/獣皮紙 内藤コレクション

西洋版画を視る

リトグラフ：石版からひろがるイメージ

会期：2024年6月11日[火]－9月1日[日]

会場：版画素描展示室



エドゥアール・マネ
《プルチネッラ》
1874年
カラー・リトグラフ、ウォーズ紙
国立西洋美術館

「西洋版画を視る」シリーズでは、これまで西洋版画のおもな技法に焦点を当て、その制作方法や特有の表現を紹介してきました。3回目となる本展では、「リトグラフ(石版画)」を取り上げます。

リトグラフの「リト(litho)」は、ギリシャ語で「石」を意味する lithos が語源となっています。1798年頃にドイツの劇作家アロイス・ゼネフェルダーによって発明されたこの技法は、当初から版材として石灰石が使われていたため、この名称が一般的になりました。リトグラフで重要となるのは、水と油が互いに反発しあう性質を利用する点です。木版画、エングレーヴィング、エッチングなどの技法では、彫ったり削ったり、酸で腐蝕させたりして版に凹凸をつけますが、リトグラフは、石の上に図柄を描き、化学処理を施すことで、平らな版から印刷できることが大きな特徴です。この新たな方法は、19世紀のヨーロッパにおいて、楽譜や地図、出版物など実用的な印刷や複製技術として活用される一方、自由な描画が可能なることから、多くの画家たちが試みるようになり、芸術的な版画の技法としてフランスを中心にまたたく間に広まります。

本展では、発祥の地ドイツから各国への伝播を伝える初期の作例や、リトグラフの大衆化に寄与したドーミエのカリカチュア、マネやルドンらによる様々な試み、そして世紀末に隆盛を極めた多色刷りのポスターにいたるまで、19世紀におけるリトグラフの歴史と表現の展開を、およそ40点の作品を通して見ていきます。あわせて、リトグラフの制作工程の一例を示し、この技法の原理を紹介するコーナーを設けます。リトグラフならではの描写に注目しながらその歴史を辿り、各作品をじっくりと「視る」ことで、その多様で豊かな表現をお楽しみいただけたら幸いです。

〔国立西洋美術館特定研究員 久保田有寿／国立西洋美術館主任研究員 酒井敦子〕

クラウドファンディングプロジェクト

「みんなの3Dロダン図鑑」をつくらう！ 実施中です

期間：3月5日[火]－7月2日[火]

目標金額：7,000,000円

国立西洋美術館では、当館所蔵のロダン彫刻全60作品を3Dで計測・データ化し、様々な角度や距離で自由に鑑賞いただけるWEBサイト「みんなの3Dロダン図鑑を作ろう!」の制作と公開を目指し、クラウドファンディングでご支援を募っております。本プロジェクトの最大の目的は、より多くの方に、当館の作品を鑑賞いただく機会をご提供したいという思いにあります。当館は6,000点あまりの作品を所蔵しておりますが、経年劣化の防止や展示スペースに限りがあるといった理由から、多くは収蔵庫で保管されています。WEBサイトの公開は、展示されていない作品も含むロダンの彫刻作品全点を、だれでも、いつでも、どこでもご覧になれる場、そして絵画作品に比べて楽しみ方が難しいと思われがちな彫刻作品の、新たな魅力発見の場の創出となります。また、平面だけでなく3Dデータも収集することは、自然災害の多発等様々なリスクに備えるために文化財のアーカイブ化の重要性が高まっている昨今、作品の保存修復研究での活用および調査研究の発展への寄与という重要な側面もつといます。

すべての人に開かれた美術館を目指す当館が踏み出す大きな一歩のために、皆様からの温かいご支援を心よりお願い申し上げます。

〔国立西洋美術館経営企画・広報渉外室 隈部理香子〕



「国立美術館のクラウドファンディング」

ご支援・詳細はこちらから →



2024年度のコレクション・イン・フォーカスについて

2022年度より、常設展内においてコレクション・イン・フォーカスと題した小規模なテーマ展示を実施しています。2024年2月末からは、本館で「ルドヴィーコ・カラッチ《ダリウスの家族》初展示」、新館で「印象派とナビ派の装飾画」と題したふたつの展示を行っています。前者は、2019年度に当館が収蔵した作品ですが、リニューアル工事による閉館期間を経た後に画表面の洗浄作業や額装の改良などを行い、今回ようやく皆様に披露いたします。この作品はかつて松方幸次郎が旧蔵したのですが、一般公開されるのは今回が1940年以来、84年ぶりとなります。

後者のコーナーは、当館の19世紀末から20世紀初頭にかけてのフランス絵画のコレクションから、エドゥアール・マネ作《花の中の子供（ジャック・オシュデ）》やピエール・ボナール作《働く人々》など、個人の私邸を飾る目的で制作した4点の作品を特集します。

今後も展示替えのタイミングで新コーナーの追加を予定しておりますので、決まり次第お知らせしたいと思います。

[国立西洋美術館主任研究員 川瀬佑介]



News

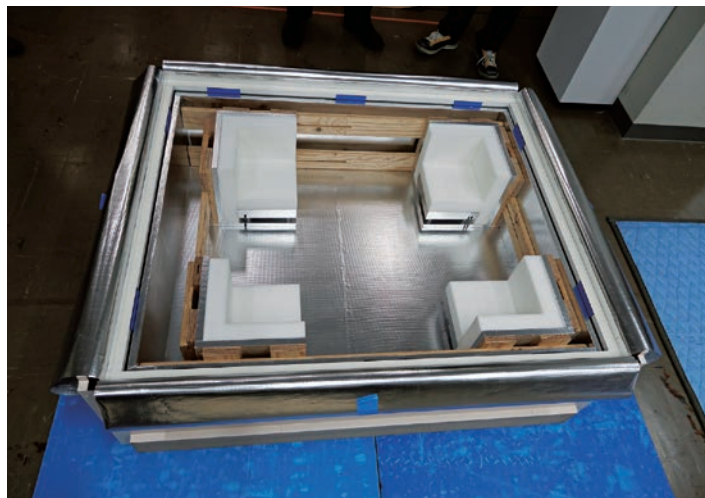
クレート ― 美術作品の輸送を支える箱

美術館から美術館へと作品が運ばれるとき重要な役目を果たするのが、「クレート（美術作品用輸送箱）」です。当館で使用しているクレートは木箱で、その内部には断熱材や緩衝材（クッション材）が入っています。輸送中に作品が温度・湿度の変動にさらされたり、振動や衝撃によって破損したりすることがないように守らなくてはならないからです。このクレート、狭い日本の美術館ではいくつものクレートを保管しておく場所がないため、輸送する作品のサイズに合わせて都度作製し、使い終わると廃棄するのが一般的です。しかし、地球環境保全の観点からは好ましくありません。そこで当館ではリユースブルクレート（再利用可能なクレート）を開発し、利用していくことにしました。

現在、常設展にて試作版のリユースブルクレートを公開しています。このクレートは当館で使用してきた木箱クレートの構造をもとにしていますが、箱内部にある作品固定用の4隅の支えを動かすことで、小さな作品から最大75×95 cmのサイズの作品まで対応できるようになっています。通常は美術館関係者や輸送業者しか目につくことがないクレートですが、今回公開することで、作品が展示室の壁にかかるまでの私たちの水面下の仕事の一端や、私たちのサステナビリティへの意識を皆さまにお伝えすることができれば幸いです。

※リユースブルクレートは、国立アトリサーチセンターの協力の下、当館とヤマト運輸で共同開発しました。

[国立西洋美術館特定研究員 高嶋美穂]



リユースブルクレート。作品を入れていない状態。白色の四角いブロックが、作品固定用の4隅の支え。



リユースブルクレートの展示の様子

[CAFÉ すいれん]

営業時間：10:00-17:30（食事11:00-16:45 | 喫茶10:00-17:15）／金・土曜日10:00-20:00（食事11:00-19:10 | 喫茶10:00-19:30）

[ミュージアムショップ]

彩飾写本（内藤コレクション）をもとにした人気グッズの中から、2つをご紹介します。

写本に登場するどこかユーモラスな架空の生き物たちを新たに描き起こしたブローチ。職人の手作業によるエナメル彩色が鮮やかな色合いに仕上がっています。ネックレスのペンダントトップとしても使用でき、個性的なアクセサリに視線が集まりそうです。

四角い小さなプレートには、写本モチーフ（5種類）をそのままプリントしました。小物置きやコースター、装飾用にお使いいただけます。

そのほか様々な写本グッズをご用意していますので、お気に入りを見つけてください。



オンラインショップ
<https://www.nmwatokyo-shop.org>



ミュージアムショップ公式Instagram
@nmwatokyo_shop



[上]
スクエアプレート
各1,540円（税込）
上から時計回りに動物、小鳥（黒）、
小鳥（金茶）、ドロルリー（白）、ドロルリー（赤）
[下]
ブローチ
各4,180円（税込）
左から赤い脚、角のある動物、ドラゴン
すべて当館所蔵の彩飾写本
（内藤コレクション）を元に制作

展示カレンダー [企画展示／常設展示] 2024年6月-9月

6月 [Jun.]	7月 [Jul.]	8月 [Aug.]	9月 [Sep.]
常設展			
[小企画展] 6月11日 [火] - 9月1日 [日] 西洋版画を視る——リトグラフ：石版からひろがるイメージ			全館休館 9月2日 [月] ↓ 9月13日 [金]
[企画展] 6月11日 [火] - 8月25日 [日] 内藤コレクション 写本——いとも優雅なる中世の小宇宙			

[開館時間] 9:30-17:30（毎週金・土曜日 9:30-20:00）＊入室は閉室の30分前まで

[休館日] 月曜日（月曜日が祝日又は祝日の振替休日となる場合は開館し、翌平日休館）、展示替期間、年末年始、臨時休館日

[臨時開館・展示替え休館のお知らせ]

臨時開館：2024年8月13日 [火] | 展示替え休館：2024年9月2日 [月] ~ 9月13日 [金]

[常設展無料観覧日]

6月9日*、7月14日*、8月11日*、9月1日*

（*当館オフィシャルパートナー・川崎重工業株式会社の提供による「Kawasaki Free Sunday」（原則毎月第2日曜日））

[企画展及び常設展無料観覧日] 8月3日 [土] 「おしゃべりOK『にぎやかサタデー』」

＊展覧会名、会期、展示内容等は変更の可能性があります。最新の情報は国立西洋美術館公式サイトをご確認ください。

[常設展]

国立西洋美術館は、松方コレクションが核となって1959年に設立された、西洋の美術作品を専門とする美術館です。

中世から20世紀にかけての西洋絵画と、ロダンをはじめとするフランス近代彫刻などを本館、新館、前庭で年間を通じて展示しています。

